

令和4年度事業報告書 <デイサービスセンターいこい・ほほえみ>

テーマ：非常災害（感染症・自然）の避難計画に基づき、安全・安心あるサービスの提供と
人材の確保に努める

～安心して働ける職場として利用者・職員双方への優しいケアの実現～

サブテーマ：利用者、家族から信頼され、地域から必要とされる施設づくり

1. 認知症があっても、安心して居心地よく過ごせる場の提供

- ①利用者が徐々に増加したが、一人ひとりの認知症の特徴や症状も様々で対応に苦慮するケースも多く、関わりの中で症状を理解し本人に合わせたケアを実践することができた。
- ②職員が多く集まることのできる昼のミーティングを活用し、細かな気付きを共有し、統一したケアに努める事ができた。
- ③必要に応じて利用者に長谷川式簡易知能評価スケール検査を実施し、認知機能の状態やその変化を把握し、職員間の共通認識としてケアに活かす事ができた。

2. 利用者の安全、安心に繋がる活動

- ①防災委員会、感染委員会を中心に BCP 作成に取り組んだ。中でも、利用者や家族に協力を仰ぎ、あじさい園公式 LINE のネットワーク作りを行った。令和4年度は雪による休園はなかったが、コロナ関連による急な休園などの緊急時に、利用者やケアマネージャーへスムーズな情報発信が行えた。
- ②防災管理委員会、感染対策委員会で得られた情報を職員間で共有し、必要に応じて書面や LINE で利用者や家族に発信する事ができた。

3. 利用者増加に向けての対応策

- ①コロナウィルス関連の休園が令和4年度は6回あり、稼働率が安定しない原因となっていた。しかし、事業所の空き状況を毎月各居宅に配信し、また日頃から気づきや提案を発信することでケアマネージャーとの信頼関係を築くことができ、新規依頼も増加した。

- ②いこい・ほほえみの活動を多くの方に知って頂けるよう「あいあい祭り」など地域交流の場に参加予定だったが、コロナウイルス関連により、あいあい祭りは開催されなかった。その代わりにいこい・ほほえみだよりを発行し、活動内容を発信した。
- ③令和4年度の坂井市一次予防教室（2教室）を受託し、地域の高齢者への健康維持活動を通して、参加者には法人についてアピールできた。また、これまで受託してきた一次予防教室の利用者が介護保険利用に伴い、いこい・ほほえみを利用することもあった（令和4年度1名）